

# 1980

昭和55年

## 世の中主な出来事

- 4月 米国、イラン大使館の人質救出失敗
- 5月 米国、セントヘレンス火山噴火
- 6月 衆参両院選挙自民党圧勝
- 7月 鈴木内閣発足
- モスクワオリンピック、日本など不参加
- 9月 イラン・イラク戦争勃発
- ポランドで自主労組「連帯」結成

1月

釜石ラグビー部、日本選手権で2年連続優勝

2月

八幡第二大形工場休止

3月

堺ハレーボール部、日本リーグで2年連続優勝



3月

釜石大形工場ペーリング工場、第四コークス炉休止

4月

君津で第一連続铸造設備が稼働  
当社初の垂直曲げ连铸機を導入した。



5月

稲山嘉寛会長が第五代経団連会長に就任

7月

八幡で上底吹転炉(LDO)が稼働

8月

大阪府茨木市でガス化溶融炉が稼働

11月

室蘭の棒鋼製造技術が日本科学技術連盟から石川賞受賞

12月

大分で製鋼 圧延直結プロセスが稼働  
全连铸の特長を活かし、合理的な製钢プロセスを築くた



茨木市に溶融炉設備三基(一基処理量150トン/日)が完成、稼働を開始した。

11月

名古屋で第一連続铸造設備が稼働  
この稼働により、名古屋の连铸生産能力は年間426万吨、连铸比率は約90%となり、製品供給基地としての体質が一段と強化された。



め、79年2月から全所をあげて取り組んだ直結プロセスVが操業を開始。製鋼、圧延を直結化し、品質と生産性向上やエネルギー削減に大きな成果をあげた。



# 1981

昭和56年

## 世の中の主な出来事

- 1月 米国のレーガン大統領就任
- 3月 中国残留日本人孤児47人初来日
- 5月 仏大統領選でミッテラン当選
- 10月 エジプトのサダト大統領暗殺
- 12月 福井謙一教授がイベルル化学賞受賞

1月

「プレスロール穿孔法の工業化による新継目無鋼管製造法の開発」で大河内記念賞受賞

1月

釜石ラグビー部、日本選手権でV3達成

3月

堺パレーボール部、日本リーグで3年連続全勝優勝



4月

60歳定年制導入および人事処遇制度改正

4月

「溶融亜鉛メッキ釜用耐食鋼の開発」で市村産業賞功績賞受賞

4月

新TFS(Thin Free Steel)製造技術を確認(社長表彰)

5月

東独ホーネッカー 国家評議会議長が堺を訪問

6月

新経営体制発足  
斎藤英四郎会長、武田豊社長就任。



6月

大分で日本初の第一高炉微粉炭吹込み設備が稼働(オイルレス操業化)

6月

イタリアンデル社への大規模技術協力「タラント技術協力」がスタート  
ピーク時には80人の技術者を派遣した。

7月

堺で世界初のCC-DRが稼働  
CCスラブを冷却せずに一気にホットストリップミルで圧延する世界初のCC-DR操作が堺でスタートした。全社支援



9月

援のもとに膨大な技術的課題を克服して実現したこの方式は、多大な省資源・省エネルギー成果を發揮した。

9月

新プロセスによる50K級高張力厚板(CLC)の開発を發表(81年社長表彰)

10月

室蘭で第三連続鑄造設備が稼働

10月

釜石で新線材ライン3コトスが稼働  
この稼働で生産能力が月3000トンアップした。

11月

(株)日鐵流通センター設立

11月

室蘭吹奏楽部、21年ぶりに全日本吹奏楽コンクールで金賞受賞

11月

広畑柔道部、全日本選抜柔道大会で優勝

12月

君津で世界初の酸洗・冷間圧延連続ライン(CDCM)が稼働



12月

君津の冷延ミル系列効率化を図るための、第三連続酸洗ラインと第三冷間圧延機との連続ラインが完成。酸洗と冷間圧延の連続化は、世界初の画期的な試みであった。



# 1982

昭和57年

## 世の中の主な出来事

- 2月 ホテル・コートジャパン火災
- 4月 フォークランド紛争勃発
- 6月 東北新幹線開業
- 11月 上越新幹線開業
- 中曽根内閣発足
- ソ連のブレジネフ書記長死去



1月 釜石ラグビード部、日本選手権でV4達成

2月 君津で第三連続鑄造設備が稼働

3月 「ロトル成形法による大形角鋼管製造技術および設備の開発」で大河内記念賞受賞

3月 八幡陸上部、水久保美千男選手が毎日マラソンで優勝

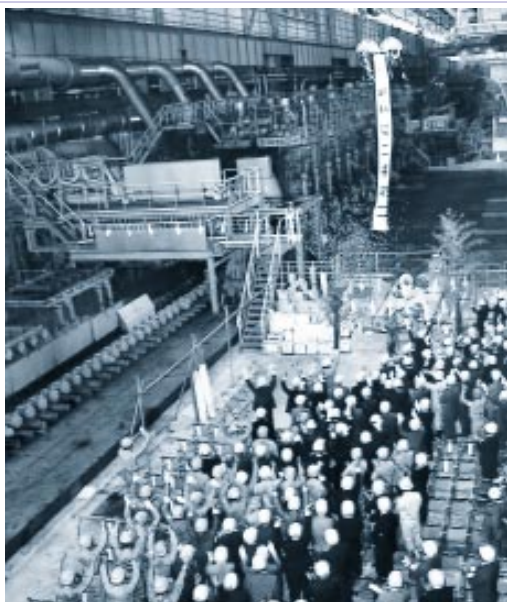
4月 第一次合理化計画スタート  
粗鋼2800万吨規模への緊急対応として、室蘭・広畑・

4月 八幡で新熱延工場が稼働  
「新生八幡」への若返り計画の二環として、鉄源の戸畑集約に続く圧延部門以降の新鋭化の主軸である新熱延工場が完成した。

4月 稲山嘉寛名誉会長、勲二等旭日大綬章受章

4月 転炉複合吹錬法を開発（社長表彰）

4月 堺各高炉を休止することとした。



9月 君津で溶銑予備処理設備（ORP）が稼働  
君津独自の新技术で、靱性や加工性に優れた高級鋼の大量生産と大幅なコストダウンが可能となった。

10月 君津でトックス乾式消火設備（CDQ）が稼働



6月 全国發明表彰「帯鋼板の形状検出方法および装置」で通産大臣賞受賞

7月 名古屋で連続焼鈍処理設備（C.A.P.L.）が稼働

10月 I T S I 東京大会開催

10月 組織人事制度改正

11月 「課」から「室」制へ移行した。



建設中の君津CDQ設備

11月 斎藤英四郎会長、勲三等瑞宝章受章

11月 室蘭第二高炉、広畑第三高炉休止

12月 「エクセライト」の開発を発表（85年社長表彰）

# 1983

昭和58年

### 世の中的主要出来事

- 4月 東京デイズ・Tランド開園
- 8月 フリービンのアキノ元上院議員暗殺
- 9月 大韓航空機、サハリン上空で墜落
- 10月 ロッキード事件で田中元首相に実刑判決
- 東北大学付属病院で日本初の「試験管ベビー」誕生
- グレナダに米軍侵攻

1月 釜石ラグビー部、全日本ラグビー選手権で史上初のV5達成

2月 八幡で第二連続鑄造設備が稼働

2月 大分陸上部、西村義弘選手が別府大分毎日マラソンで優勝

3月 堺パレボール部、日本リーグで9度目の優勝

4月 「シンクライト」製造技術を確立(社長表彰)

4月 中国姚依林副総理一行が若津を訪問

二行は、第四高炉、熱延工場、UO工場を熱心に見学した。

4月 八幡で小径シームレス鋼管工



5月 堺第一高炉休止

場が稼働

八幡の大きな戦力として画期的な新技術を導入した小径管工場が完成した。

5月 名古屋で第一電気亜鉛溶け設備(EG)が稼働

当社がトヨタ自動車(株)と共同開発した世界初の鉄・亜鉛合金「重メッキ鋼板、エフセライト」と「シンコート」を生産する設備。これにより薄板系



鋼板の供給体制が段と強化された。



5月 八幡で戸畑地区粗鋼生産1億トン達成

7月 名古屋野球部、都市対抗野球大会で準優勝

逆転3ランで初戦を突破。後は波に乗って、決勝戦に駒を進めた。決勝では川崎市・東芝に敗れたものの、名古屋野球部の活躍に、社員および東海市民は熱狂した。



8月 八幡水泳部、実業団水泳大会でV4達成

8月 むつ小川原石油備蓄タンクが完工

国家石油備蓄法に基づく国備タンクへの当社鉄海第号受注物件(11万kl×4基)となった。

10月 武田豊社長がIISI会長に就任

12月 鉄海が受注したエッソ石油開発(株)向けのいわき沖プラットフォーム超大型ジャケットの加工パイプラインの施工が完工

## 世の中の主な出来事

- 2月 ソ連アンドロポフ書記長死去  
後任にチエルネンコ氏就任
- サラエボ冬季オリンピック開催
- 5月 報道機関に「グリコ製品に毒物」の脅迫状
- 7月 ロサンゼルスオリンピック開催
- 10月 インドのインディラ・ガンジー首相暗殺

1月

第三次合理化計画策定  
中期粗鋼生産規模2700  
〜2800万トンに見合った  
適正生産規模の実現と、室蘭  
大形工場・広畑大形工場・釜  
石高炉・堺熱延工場を休止す  
ることとした。

1月

釜石ラグビー部、全日本ラグ  
ビー選手権でV6達成

3月

「製鋼 圧延直結プロセスの  
開発」で大河内記念賞受賞

3月

君津で上海宝山製鉄所から  
の実習生受け入れ開始



4月

新日鐵化学㈱発足  
新日本製鐵化学㈱と日鐵化  
学工業㈱の合併による。

4月

構内輸送の抜本的生産性向  
上活動開始  
キャリアパレットの導入拡大  
出荷管制のシステム化、倉庫・  
岸壁のオペレーションガイドシ  
ステムなどが実施された。

4月

溶銑予備処理法による新製  
鋼プロセスを開発(社長表彰、  
86年大河内記念生産賞)

4月

レーザー照射による極低鉄損  
方向性珪素鋼板を開発(社  
長表彰、85年大河内記念技術  
賞)

4月

気水冷却型C.A.P.L.を開発  
(社長表彰)

5月

堺バレーボール部、黒鷲旗全  
日本選手権大会で優勝



5月

君津で粗鋼生産1億トン達  
成

5月

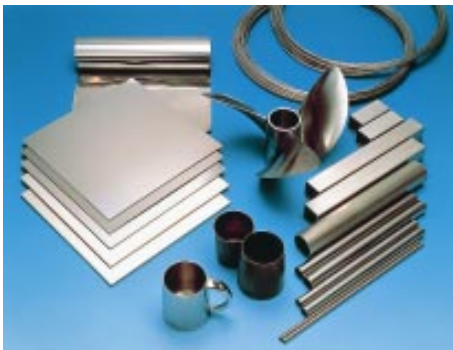
永野重雄名誉会長逝去

6月

定款変更により、「総合素材  
メーカー」へ  
業容の拡大・発展に備え、事  
業目的を追加および明確化  
した。

7月

「新素材事業開発部」・「チタ  
ン部」設置



7月

ロサンゼルスオリンピックにバ  
レーボールの田中幹保・岩田  
稔、野球の浦東靖・正田耕三  
各選手が参加

8月

広畑で新熱延工場が稼働  
広畑新プロセス構想の中核と  
なるこの工場は、ロールヘア・ク  
ロウ方式の採用など、全社の  
最新技術を結集した画期的  
ミルとなった。

8月

八幡水泳部 実業団水泳大会  
でV5達成

9月

日鉄ヒートズ㈱起工式



# 1985

昭和60年

### 世の中の主な出来事

- 3月 ソ連チエルネコ書記長死去、後任にゴルバチョフ氏就任
- 厚生省、AIDS患者第1号確認を発表
- 8月 御巣鷹山に日航機墜落
- 9月 メキシコ南西部で大地震
- ブラザ合意でドル高是正
- 11月 コロンビアで火山が大噴火



ラグビーマガジン(P.2右下の写真とも)

1月

釜石ラグビー部、史上初7年連続8度目のラグビー日本社会人大会は、神戸製鋼を2対0で4年連続完封して7連覇、通算9度目の優勝。日本選手権では、3年連続対戦の同志社大学を、釜石ラグビーの真髓「全員ラグビー」により31対17で破った。

3月

堺熱延、広畑大形、室蘭大形工場休止

4月

東京製造所、創立50周年

4月

武田豊社長、勲一等瑞宝章受章

4月

㈱マイクロン設立

4月

高強度、高靱性線材(DLP)を開発(社長表彰)

6月

光構内にツテツ電子(株)発足  
シリコンウナ八を生産、販売するツテツ電子(株)が誕生。  
翌86年9月には工場が竣工した。

6月

「新事業開発企画部」設置

7月

室蘭第二高炉火入れ



7月

君津で第一電気亜鉛メッキ設備(EGM)が稼働  
品質の多様化に対応して多種類のメッキや後処理が可能であり、広幅のメッキ鋼板も製造でき、また、塗装設備に新技術を盛り込み、高生産性や品質の高位安定を追求したブロンを導入した。



8月

室蘭第四高炉休止

8月

大分で世界最大のコークス乾式消火設備(CDO)が稼働

9月

釜石第二高炉休止  
68年間にわたり2532万トンを出銜。同時に、第二コークス工場も休止した。

11月

㈱日鉄ライフ発足  
日鐵企業(株)と日鐵不動産(株)の合併による。

11月

上海宝山製鉄所第一期工事完工  
9月の第一高炉火入れに続き、完工式典が行われた。中国側からは趙紫陽首相をはじめとする国務院首脳など200名が出席。日本側からは団長の稲山嘉寛名誉会長、斎藤英四郎会長、武田豊社長をはじめ200名が訪中して出席した。

11月

光で新溶解設備が稼働  
一電源に60トンの炉一基からなる新溶解設備が操業開始した。

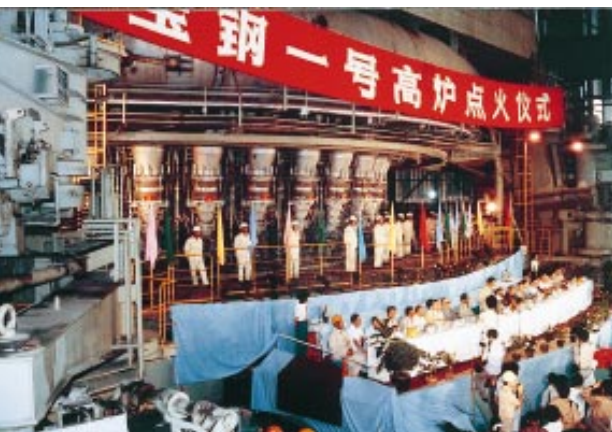


12月

鉄海が東京電力(株)発電所構内でのLNGタンカーからのLNG受入設備・配管設備を初受注

12月

八幡第二高炉火入れ



世の中の主な出来事

- 1月 米国のスペースシャトル「チャレンジャー」爆発
- 2月 フリーレンでアキノ大統領就任
- マルコス氏亡命へ
- 3月 米国が債務超過国に
- 4月 男女雇用機会均等法施行
- ソ連のチェルノブイリ原発で重大事故
- 11月 伊豆大島三原山が209年ぶりに大噴火

2月

海外向け初のLPG受入基地  
案件完工  
鉄海がタンクコンウバンLP  
G受入・処理・貯蔵・輸送設備  
をフルターンキーで受注した



2月

米国インランドスチール社への  
総合技術協力スタート

鉄鋼窯炉用大容量火災溶射  
補修技術を開発(社長表彰、  
89年大河内記念生産賞)

4月

「新しい変態機構を活用した  
継手靱性の優れた鋼の開発」  
で市村産業賞功績賞受賞

4月

自動車用新防錆鋼板「ウエル  
コート」を開発(社長表彰)

4月

「シルバーアロイE」を発表  
(89年社長表彰)

4月

高強度熱延鋼板Dual Phase  
ハイトンを開発(社長表彰)

4月

EN本内部資本金制度導入  
経営成績および財務状況を  
適確に把握するため、EN本  
内部資本金制度を導入し  
た。

4月

ブラジルのカラジャス鉱出荷  
開始



鉄鉱石供給力拡充のため日  
本・ドイツなどの製鉄会社に  
よる長期契約締結と世界銀  
行などの融資により開発。同  
時期、原料炭についても豪州・  
カナダの新規10炭鉱と長期  
契約を締結した。

5月

齋藤英四郎会長が第六代経  
団連会長に就任

5月

名古屋で中径電線管工場が  
稼働  
TUF PIPE(強靱なパイ  
プ)を製造する中径電線管工  
場が稼働、新たな製造・販売  
体制を確立した。



5月

光が緑化推進で内閣総理大  
臣賞受賞  
緑化活動の推進・緑化思想の  
普及啓発に顕著な功績があ  
ったとして、緑化推進運動功  
労者内閣総理大臣賞を受賞し  
た(84年には緑化優良工場と  
して鉄鋼業界初の通産大臣  
賞も受賞)。



5月

室蘭で特殊取鍋精錬設備L  
Fが稼働  
高級鋼製造体制確立の新戦  
力であるLFが稼働。一層の高  
純化、高浄度化が図られ  
た。

7月

「エレクトロクス事業部」設  
置  
複合経営の新たな柱として、  
電子材料から最終製品に至  
るまで貫いた事業を展開す  
る。

7月

大分で溶銑予備処理設備O  
RPMが稼働

7月

君津でNS PAC鋼管矢板  
工場が稼働  
錆びない鋼管杭として注目さ  
れるNS PAC鋼管矢板工  
場が完成した。

8月

八幡水泳部、日本実業団水泳  
競技大会で7年連続27回目  
の優勝



10月

釜石で新規事業が続々誕生  
きのご栽培に続き、東北マク  
ス㈱PNN㈱、㈱ファイニン  
クなど、釜石活性化を担う新  
規事業が次々に誕生した。

10月

釜石が創業100周年



10月

八幡陸上部川角博美選手が  
アジア大会1600mリレ  
で金メダル獲得

11月

広畑で世界初の完全連続冷  
延鋼板製造設備「E.P.T」が  
稼働  
E.C.A.P.Tと新方式の「デス  
ケリング(酸洗)設備を直  
結・連続化した。



# 1987

昭和62年

### 世の中の主な出来事

- 4月 国鉄が分割民営化し、JR6社発足
- 6月 英国総選挙で保守党大勝、サッチャー首相3選
- 10月 利根川進教授にノーベル医学・生理学賞
- 「ニューヨーク市場、史上最大の暴落 魔の月曜日」
- 11月 竹下内閣発足
- 12月 盧泰愚氏が韓国大統領に当選

1月 (株)日鉄マイクロメタル設立

2月 タイニーボンスチールエンジニアリング「コンストラクション」(TNS)社設立

2月 大分陸上部、西村義弘選手が別府大分毎日マラソンで2度目の優勝

2月 八幡で第一「トックス乾式消火設備(CDC)」が稼働

3月 「大規模熱間圧延ミルにおける高精度・即応生産技術の開発」(スケジュールフリー圧延技術)で大河内記念賞受賞

4月 第一次中期経営計画スタート  
「製鉄事業中期総合計画」および「複合経営推進の中長期ビジョン」を策定。6月に定款変更し、「エレクトロテクス・情報通信事業本部」および「ライフサービス事業部」を設置し、「新素材事業本部」への改称を行った。

4月 NSUN OEM販売で合意



4月 ロルベア・クロス方式による高精度・高効率鋼板圧延法を開発(社長表彰、97年大河内記念生産賞)

4月 高性能アルミニウム鋼板(アルシート)を開発(社長表彰) 君津で第四連続鋳造設備が稼働

5月 企業内ネットワークシステム NS INS稼働

6月 新経営体制発足

武田豊会長、三鬼彰副会長、齋藤裕社長就任



6月 皇太子殿下が第一技術研究所をご視察



6月 全国発明表彰「炭素耐火物およびその製法」で科学技術庁長官賞受賞

7月 室蘭で全天候型直送出荷パイプ完成



12月 差厚波形厚鋼板の製造技術開発を発表(86年社長表彰)

12月 良加工性プレス用素材「熱延BH鋼板」の開発を発表(89年社長表彰)

10月 稲山嘉寛名誉会長逝去

11月 鉄骨CAD/CAMサービス事業を開始

11月 世界柔道選手権で須貝等選手が金メダル獲得



提供:共同通信社



# 1988

昭和63年

### 世の中の主な出来事

- 2月 カルガリー冬季オリンピック開催
- 3月 世界最長の青函トンネル開業  
東京ドーム球場開場
- 4月 瀬戸大橋開通
- 7月 リクルート事件
- 9月 ソウルオリンピック開催

3月

ステンレス鋼の分塊圧延を省略した直接熱間押出技術の開発を発表(87年社長表彰、88年大河内記念生産賞)

4月

新日鉄情報通信システム(エニコム)設立  
同時に、エヌシーアイ総合システム(株)、日鉄日立システムエンジニアリング(株)、エヌエスアンドアイシステムサービス(株)が発足した。

4月

君津で製鋼と熱延を直結化する輸送システム(DHCR)が稼働

4月

「高強度・高韧性線材の開発」で市村産業賞功績賞受賞

4月

高韧性溶接用鋼を開発(社長表彰)

5月

室蘭で棒鋼工場新鋭化工事が完了

5月

堺パレーボール部、黒鷲旗全日本選手権大会で優勝



6月

移動体用衛星放送受信システムを開発

7月

全社総合生産技術管理システム(SGK)稼働

7月

米ドル建てワラント債を発行

7月

君津第四高炉火入れ  
高炉三基体制がスタートした。

8月

(株)ユタカ電機製作所に資本参加

9月

大分で設備管理システムMINDL全面稼働

9月

光の安全衛生協力が、1400日の国内最長無災害記録を達成

10月

カラー静電プロッターの製造販売開始



10月

新素材事業本部、光で厚み10マイクロステンレス箔の製造体制を確立



7月

鉄骨建築用耐火鋼材(FR鋼)を発表(90年社長表彰)

7月

(株)スペースワールド設立

7月

(株)三協精機製作所と事業提携

9月

ソウルオリンピックにパレーボールの真鍋政義、硬式野球の野茂英雄・應武篤良、陸上の川角博美、柔道の須貝等各選手が参加

10月

齋藤裕社長がIISI会長に就任

12月

八幡第四高炉休止

12月

大分第一高炉火入れ

12月

釜石野球部休部



# 1989

昭和64年 / 平成元年

### 世の中の主な出来事

- 1月 昭和天皇崩御。元号が昭和から平成に
- 4月 消費税導入
- 6月 竹下内閣リクルート事件で退陣、宇野内閣発足
- 中国北京で、百万人規模の民主化運動デモ(天安門事件)
- 8月 海部内閣発足
- 11月 ベルリンの壁崩壊
- 総評が解散し、連合発足
- 12月 ルミアアのチャウシェスク独裁政権崩壊



1月 取締役会で発行総額12億ドルのワラント債の発行を決定

1月 釜石グレインセンター(株)設立

3月

釜石で第二高炉ほか鉄源休止  
第一次中期経営計画に基づき、第二高炉をほしめとする鉄源設備が休止。明治19年以来燃え続けた高炉の火が消え、103年にわたる鉄鋼一貫の歴史に幕を閉じ、複合事業体制のスタートを切った。累計出鉄量は4650万トンにおよんだ。



3月

堺ハイボール部 日本リーグで優勝



4月

中国の李鵬首相夫妻が君津を訪問



4月

粒度偏析制御式鉄鉱石焼結法を開発(社長表彰、90年大河内記念生産賞)

4月

建築用耐震良溶接性鋼材B(UITEN)を開発(社長表彰)

12月

当社初の水平型連続铸造設備で、構造もコンパクト。垂直型に比べて铸片の表面品質が著しく向上した。

名古屋で転炉型溶铸予備処理設備(ORP)が稼働

5月

堺ハイボール部、黒鷲旗全日本選手権大会で2年連続優勝

6月

新経営体制発足  
三鬼彰会長就任、齋藤裕社長。

6月

組織改正  
「都市開発事業部」、知的財産部「および」エレクトロニクス研究所」を設置した。

7月

フレックスタイム制一部導入

10月

堺で、ハイハイテム生産開始

11月

光で水平連続铸造設備が稼働

